

ミュージズ N0.12 平和のための博物館・市民ネットワーク通信

発行：2004年5月

事務局：立命館大学国際平和ミュージアム

館長：安斎育郎

編集：山辺昌彦、山根和代

イラスト：戸崎恵理子

603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

Tel: 075-465-8151 Fax: 075-465-7899 <http://www.ritsumei.ac.jp>

平和博物館国際ネットワークのニュースレターは、まだ発行されていませんが、海外のニュースと、国内の平和博物館の活動をお伝えします。

平和のための博物館・市民ネットワーク 第4回全国交流会のお知らせ

2004年11月27日(土)と28日(日)に、東京都江東区夢の島3-2の夢の島公園にある「ぶんぶ 東京スポーツ文化館」(JR京葉線・地下鉄有楽町線・りんかい線「新木場駅」下車徒歩10分。地下鉄東西線「東陽町駅」からバス夢の島下車徒歩3分)で、平和のための博物館・市民ネットワーク第4回全国交流会を開催します。

日程案は以下の通りです。

11月27日

午前10-12時 東京大空襲・戦災資料センター見学

午後2-5時 交流会(「ぶんぶ」研修ルームB)

午後5-6時 都立第五福竜丸展示館見学

午後6-8時 懇親会
(「ぶんぶ」レストラン)

11月28日

午前9-12時 交流会(「ぶんぶ」研修ルームB)

午後2-4時 東京大空襲・戦災資料センター見学

報告および参加希望の方は、立命館大学国際平和ミュージアムの山辺まで申し込み下さい。また持ち方、テーマなどのご意見をお寄せください。



宿泊は「ぶんぶ」で可能です。希望者は都立第五福竜丸展示館の安田和也さんにFAXで申し込んで下さい。料金はツイン2名利用で1名5500円です。

東京大空襲・戦災資料センター見学希望の方は事前に、東京大空襲・戦災資料センターに申し込んで下さい。

都立第五福竜丸展示館連絡先

Tel:03-3521-8494 Fax:03-3521-2900

東京大空襲・戦災資料センター連絡先

Tel:03-5857-5631 Fax:03-5683-3326

「南京事件に関する中日両国の認識の差
と解決の展望」

グエン・カー・ラン（ベトナム・戦争
証跡博物館館長）

「平和創造のための戦争の記憶の
子孫への継承」

山辺昌彦（立命館大学国際平和ミュージ
アム学芸員）

「日本の平和博物館はアジア・太平洋戦
争をどう描いているか」

翁抗日反戦美術館の再建を

2003年3月23日に翁抗日反戦美術館が、火事で焼けてしまいましたが、現在再建をしようと取り組んでおられます。下記は、館長の翁秀岳さんの呼びかけです。

南京大虐殺祈念慰霊

翁抗日反戦美術館建設の趣旨と経過報告

翁抗日反戦美術館館長 翁秀岳

緒言：1951年、日本政府はサンフランシスコ講和条約に署名した。この講和条約の第11条には、「日本政府は極東国際軍事法廷と日本国内あるいは国外の連合国の戦争軍事法廷の判決を受諾」とある。すでにそれ以前、戦争終結後おこなわれた南京の軍事法廷及び東京軍事裁判において南京大虐殺は審理され、その結果責任者は処刑された。しかし敗戦後57年たっても、日本ではドイツ、イタリアと異なり未だに侵略戦争に対する歴史認識は不十分であり、南京大虐殺はなかったと言った元閣僚もいる。犠牲者

国際シンポジウム

「アジアの平和博物館の交流と協力」

国際シンポジウム「アジアの平和博物館の交流と協力」が下記の通り開催されます。平和のための博物館・市民ネットワークの会員の方も是非ご参加下さい。

記

主催 日本学会議平和問題研究

連絡委員会

共催 立命館大学

日時 2004年6月19日(土) 10:00-17:00

会場 立命館大学京都衣笠キャンパス

中川会館4階401会議室

報告予定は以下の通りです。

ホンクー・ハン（韓国・聖公会大学教授）

「韓国における平和博物館運動の胎動と
日韓協力の可能性」

朱成山（中国・侵華日本軍南京大虐殺遇
難同胞記念館館長）

を思い、中日友好のために、こうした日本社会の在り方を変える必要があると考え、あえてこの反戦美術館を設立した。

方法：66 m²の工場跡地を利用した展示場に、中国人画家郭培育さんの南京大虐殺に関する絵画及び平和をテーマとする絵画、中日戦争の真相を伝える写真、歴史資料、ビデオ、及び関連書籍を準備し、2万5千部のリーフレットを以って内外に宣伝をおこなった。南京市の侵華日軍南京大虐殺遇難同胞記念館から贈られた書籍、雨花石、ビデオの他、アメリカ在住の中国人の制作したビデオ「マギーの遺言」、さらに南京大虐殺遺族の尚照富さんからの手紙及び日本軍人家族倉橋綾子さんから寄せられた日本軍人の謝罪の遺言も展示した。また以下の日本の市民団体から、パネルの提供を受けた。

銘心会（「心に刻む会」南京集会）

陸軍軍医学校跡地で発見された人骨問題を考える会

ハルモニを支える会 チョガッポ

チェルノブイリ 核と大地写真展事務局

結果：1996年7月7日の開館日より現在までに日本人を主体に、数カ国200余名が来館した。10代から80歳まで、また男女とも各種市民団体、職業人、学生も参観し、討論もおこなわれた。館の案内と説明は、主として館長が直接おこない、その後南京大虐殺遇難同胞記念館のビデオもしくは「マギーの遺言」を見てもらい、それからお茶を飲みながら30分から1時間討論した。来館者は、ほとんどの人が南京大虐殺を知っており、日本の過去の侵略戦争について反省している人達も少なくないことを知っ

た。しかし来館者は、予想以上に少なかった。

考按（考証）：来館者は当初予期したよりはるかに少なく、これは意外であった。しかし来館者では、南京大虐殺について何も知らない人は一人も無く、真実を知っても変わらない国であるなら別であるが、知っても変わらない面があるとすれば日本の歴史認識変革を妨げているものは、「知っている」とか「知らない」ということだけでなく、何か他に根本的な理由があると考えざるを得なかった。

- 1) 戦前に長い軍国主義教育を受けて、現在もその影響が残っていること。
- 2) 日本社会では、自我が内向きとも言え、自分たち内部で話が通ればそれで良いとする傾向及び真実を隠す性向があり、このため歴史の真実が確立しにくい。
- 3) 戦前も戦後も政府及び社会の体質は基本的にあまり変わらなかった可能性がある。
- 4) 日本社会では歴史の「真実」に対しても一致した趣旨でお互いに協力が得られにくい。このため運動が弱くなると思われる。
- 5) これらに対し、南京大虐殺否定派の中には、「大虐殺は無かった。侵略戦争ではなかった。加害責任については、謝罪する必要がない」という人達もいる。
- 6) このように日本自体では歴史認識が変わりにくい上に、私見ではあるが被害国が賠償を取らなかったこともあり、日本では戦争責任についても、もう済んだ話として片付けやすい方向性が生じたと思われる。

結論：日本の歴史認識を変革するためには

- 1) 日本社会は、歴史の事実を直視し、自らの加害の事実とも対面すべきである。
- 2) 日本政府は関係機関を通し、積極的に国民の歴史認識の変革に努めなければならない。
- 3) 被害国側は、日本の現状をよく理解し、日本に働きかけるべきと思われる。

終干(最後に): 人間は、アフリカ南部より発生したとされており、当然共通の祖先語を持っていたと考えられる。人間は時に誤ることもあり、話し合うことも必要である。人間は動物でもあり、また人間でもある。いかなる人も、いかなる組織も、何人であっても何語を用いても良く、時代、国家、民族、宗教、芸術、学問、政治、その他を超えて共通の歴史観を有するために、私の立場からすれば、南京大虐殺肯定派、否定派、その他に分け、そのいずれかに属すると考えられる。私はかくして、人類共通の歴史観を確立したことを、全世界に伝えることにした。

私が日本社会一般の人々と歴史認識が異なるとすれば、6歳頃より父からいろいろな事実を教えられ、今日まで51年間この問題を考えてきたことがあります。父が違ったからだ、今は思っています。その他、朱成山元南京記念館長及び中国強制連行問題では、何天義先生の「中国勞工(勞工は、強制連行された労働者の意)など贈られた重要な原書を読み、また日本の研究者、市民運動団体の書籍、出版物、展示物を見て、さらに事実への確信が育ったことも付記し、ここに深謝いたします。

なお当美術館は、2003年3月23日失火により焼失し、現在再建を考えております。その節には市民運動団体も含めて、諸兄諸姉に資料、書籍、出版物、絵画及び資金を要請したく、また「友の会」などの支援交流会を作って運営維持等にも参加して戴ければと思っております。

(1998年第3回世界平和博物館会議報告書収載の原稿に手を加えました。)

連絡先：331-0812 埼玉県北区宮原町 3-229 翁秀岳様

カンパ：郵便口座

10300 48636551 (振込額随意)

(玉置啓子さんに、いくつか中国語の翻訳をしていただきました。有難うございました。)

女たちの戦争と平和資料館建設委員会

1年間の活動報告

女たちの戦争と平和資料館建設委員会
事務局 吉田裕子

2003年4月に資料館建設委員会が発足し、それから丸1年が経ちました。これまでの活動と現在の状況、今後の活動予定などをご報告したいと思います。

資料館建設委員会は研究者やジャーナリスト、会社員、学生など、さまざまな立場の方々が「資料館建設を実現させよう！」という目的のもとに集まったボランティア集団です。委員会ではいくつかのチームに分かれて作業をすすめています。

「慰安婦」チームは西野瑠美子さん、斉藤由美子さんたちが中心になって元「慰安婦」の方々の資料収集・整理をおこなっており、現在は元「慰安婦」の方々の証言集制作にとりかかっています。

現代の性暴力チームは渡辺美奈さん、松本真紀子さん、本山央子さん、そして現在アフガニスタンに赴任中の久保田真紀子さんを中心に、“現代における紛争下のジェンダーに基づく暴力”というコンセプトのもと、その実態と暴力根絶に取り組む団体の活動について資料収集をおこなうことになりました。将来的にはそれらの団体とのネットワークを作っていこうと考えています。

映像記録チームは池田恵理子さんが主宰する「ビデオ塾」が資料館の動画資料を収集・管理することになりました。これまで収集した戦時性暴力の被害者・加害者の映像記録ではまだ不十分なので、今後は、自らビデオ撮影をおこなったり、他の個人や団体と協力して収集していく予定です。

松井文庫チームは細井明美さん、有村順子さん、兼永典子さん、高橋茅香子さん、秋元由利さんが手分けして松井やよりさんの蔵書や記事整理をおこなっています。

資料整理チームは青木玲子さんや山本和美さんなどが資料館にいつ、どのようなデータベースを導入するのが最適か、また資料館全体のコンピュータシステム設計について検討を始めています。

その他、協力していただける建築家の方と資料館のイメージについて話し合いました。資料館全体のヴィジュアルイメージについても協力を申し出てくださったデザイナーの方と、今後どのような形でご協力いただけるかを検討している最中です。

各チームの活動の他に、委員会のメンバーがそれぞれ国内外の資料館を訪ねたり、学習会を開いたりして、そこから私たちの資料館のコンセプトがさらに具体的にまとまってきました。

1つは、「被害者ひとりひとりの顔が見える資料館」です。戦争の被害は「死者何万人」「被害者何万人」というようにこれまで総数で語られることが多く、その規模は理解できても被害者をなかなか身近に感じられませんでした。しかし、韓国のナヌムの家資料館やドイツ・ポーランドの資料館などでは、被害者ひとりひとりの人生にスポットライトを当てた展示になっており、私たちと同じような普通の人々がいかに凄まじい被害を受けたのかが理解しやすくなっています。わたしたちの資料館も、訪れる人たちが被害者の方たちの人生を辿れるような展示にしたいと考えています。

もう1つは「アクティブ・ミュージアム」という考え方です。これは在独の日本人女性から成る「ベルリン女の会」の梶村道子さんが去る4月3日に東京で開いた学習会で紹介して下さった概念で、アクティブミュージアムとは「運動体であると同時に市民が目指す記念館のコンセプト」です。それは単なる記録展示の場ではなく、情報センターと政治教育・ワークショップ・出会いの場を兼ねており、加害の歴史（ドイツではナチス）を自ら学び、考え行動できるように市民をエンパワメントする場なのです。この概念は旧日本軍の加害の歴史も明らかにしようとする私たちの資料館にもびったりと当てはまるので、今後はドイツで「アクティブミュージアム」が実際にはどのように運営されているのかをさらに詳し

く勉強し、参考にしたいと考えています。

この4月からは、「資料館建設委員会」をさらに効率的に運営するために委員会内に「運営委員会」を設け、各チームからの代表者が集まって実質的な話し合いをスタートさせました。今後は委員会の活動報告をホームページなどで積極的に発信していきたいと考えておりますので、皆様にもさらに身近に感じていただけたらと思います。この資料館を実現させるために、皆さまのご意見、またご協力をいただけますようお願いを申し上げます。ぜひ、皆さんと一緒に「女たちの戦争と平和資料館」を作っていきましょう！

「女たちの戦争と平和資料館」建設委員会
〒169-0073

東京都新宿区百人町 2-23-25 矯風会第二
会館 203

TEL&FAX 03-3369-6866

メールアドレス info@wfphr.org

「女たちの戦争と平和資料館」建設委員会
ホームページ：<http://www.wfphr.org/>

丹波マンガン記念館：京都・京北町

丹波マンガンは江戸時代に陶器の釉薬に使用され、1889年より鉱業権が出来て1983年まで90年余りの歴史があり、バッテリーや乾電池にも使われましたが、90%は鉄を硬くする為に使用されました。マンガンは戦車の鉄板や砲身やキャタピラーなどの鋼鉄にも使用される事から、第2次大戦中には300万トンのマンガンが必要でしたが、採掘量は30万トン以下で、マンガン鉱の採

掘は急迫していました。

東北の三陸地帯と四国の宇和島そして丹波盆地がマンガンの三大産地と言われます。中でも丹波盆地は500もの鉱床があり、300の鉱山が採掘されました。そのマンガンを採掘したのは、主に被差別部落の人々や強制連行や募集連行された朝鮮人でした。兵庫県の篠山にある福住鉱山ではタコ部屋があり、京北町の掛橋鉱山や亀岡の大城山鉱山では強制連行された朝鮮人が200キロから320キロものマンガンを、かついで運んでいました。これらの朝鮮人は2年間無料で強制連行された人達でした。又、丹波盆地には、約3000人もの強制連行や募集連行された朝鮮人や日本の植民地政策によって農地などを取り上げられた朝鮮人達がいきました。

戦後鉱山で働いた地元の人も含め、たくさんの人達が採掘時に出る粉塵を吸引する事によるじん肺によって苦しんでいます。又、朝鮮に帰った朝鮮人もじん肺で苦しんで亡くなった人も多くいます。こうした状況にみずからも、じん肺であった前館長の李貞鎬は、じん肺患者の救済と同時に私費で丹波マンガン記念館の建設を進め、1998年に開館に至りました。地元の京北町にも協力を要請しましたが、被差別部落や強制連行の歴史を残したくないと拒否されました。強制連行の博物館は日本国には当時一館もなく、日本国も京都府も強制連行の歴史を残したくないという姿勢が伺えます。

本来、強制連行や従軍慰安婦の歴史は甚大な罪の大きさから日本国が責任を持って歴史を残すべきですが、第2次大戦の侵略の反省のない日本国ではその歴史は個人の努力で残そうとされているのが現状です。

その加害の歴史を直視しない姿勢は、日本に住む在日韓国、朝鮮人の差別にもつながっています。丹波マンガン記念館ではマンガン採掘の歴史を残す事によって、丹波マンガンの全体像を後生に残そうとしています。

郵便番号 601-0533

住所 京都府北桑田郡京北町大字下中 45 番地
N P O丹波マンガン記念館

Tel: 0771-54-0307 Fax:0771-54-0234

ビデオ「丹波マンガンに生きた朝鮮人と部落」を発売しています。価格は 5000 円で 40 分です。F A X かメールアドレスで申し込んで下さい。

電子メール アドレス :

tanbamn@apricot.ocn.ne.jp

振り込み先か代引きか選択していただきます。振り込みの場合、送料と振込先を連絡します。

見学は、鉱山の坑内見学と資料館になります。(所用時間 15 分 ~ 30 分) 説明の必要な方だけ予約がいります。所用時間 40 分 ~ 60 分。電話か F A X にて申し込んで下さい。

対馬丸記念館工事、順調に

対馬丸記念館は、現在建築工事が順調に進行しています。着工後、不発弾、無縁骨、貝塚等が相次いで発見され、工事が一時中断した時期もありましたが、その後天候にも恵まれ、大方の工事が無事進んでいます。

1944 年 8 月 21 日、那覇港から鹿児島に

向けて、疎開児童、引率者ら計 1661 人を乗せた貨物船「対馬丸」が出港しました。しかし 22 日対馬丸は、米潜水艦ボーフィン号の魚雷攻撃にあい、11 分後に沈没しました。ハワイにボーフィン記念館がありますが、財団法人対馬丸記念会の高良政勝会長や「対馬丸」生存者ら 3 人が訪問されました。その訪問は「ハワイ報知」新聞に、掲載されました。詳細は、「対馬丸通信」4 号(2004 年 3 月 20 日発行)に載っています。

Tel & Fax: 098-941-3515

www.tsushimamaru.or.jp

電子メール アドレス :

info@tsushimamaru.or.jp

安齋館長の講演 :

「戦争の違法化の歴史と反戦運動」

立命館大学国際平和ミュージアムの安齋育郎館長は、2004 年 3 月 27 日、28 日に京都市で開催された日本平和委員会青年研修会で、「戦争の違法化の歴史と反戦運動」という講演をされました。

安齋さんは、20 世紀初頭には軍備や戦争が国家の権利として認められていたが、二度にわたる世界大戦の惨禍を経て、パリ不戦条約や国連憲章など戦争を違法とする国際的な平和秩序が築かれてきた歴史を振り返った上で、日本国憲法第九条はこの流れのもっとも先駆的なものと指摘。

その一方で、「憲法改悪反対と叫んでいるだけでは、改憲は阻止できない。平和運動側からも安全保障論の対案を示す必要がある」と述べて、「無事法制(平和・共生外交

基本法)」の整備や、自衛隊の国境警備隊と災害援助隊への再編成、国際貢献大学の創設など、非核・平和を基調とする「安斎育郎の安全保障論」を紹介しました。

そして最後は、「世界を変える主体は自分自身だ」という認識を持って、問題意識は深刻に、しかし活動は眉間にしわを寄せるのではなく、楽しく自由に多彩な方法で生きいきと頑張りたい」と、青年へのメッセージで締めくくりました。

(日本平和委員会「平和新聞」1733号・2004年4月5日発行より)

平和、人権、民主主義・・・いまこそ 日本国憲法の理念を社会に広げる ～ 法学館憲法研究所の活動 ～

法学館憲法研究所
大川 仁

日本政府はアメリカのイラク攻撃を支持し、そして自衛隊を派遣した。平和主義の原則を定めた憲法を持つ国の政策として大いなる疑問を感じる。そして、憲法「改正」がすすめられようとしている。多くの国民が憲法「改正」を支持するようになってきたと報道されるが、そもそも国民に憲法の役割や内容はほとんど正確に伝わっていないのではないかと。憲法は他の法律とは異なる性格を持ち、国民の人権を守るために国家権力を制限するために存在するということが、したがって国家権力の担い手である国会議員や公務員は憲法を遵守しなければならないこと、などがどれだけ国民に知らされているであろうか。

法学館憲法研究所は、非政府組織としての自由な研究機関である。第一級の憲法学者とともに日本国憲法についての研究活動をすすめる。混沌とした今日の日本社会・国際社会に対して、憲法学を発展させ、平和、人権、民主主義などについての提言活動をすすめたい。同時に法学館憲法研究所は日本国憲法とその理念を広く社会に広げていく。今秋には、日本国憲法とその理念をわかりやすく伝える書籍を刊行する予定である。

2004年5月、法学館憲法研究所はそのホームページ(<http://www.jicl.jp/>)を開設した。このホームページでは今後憲法についての様々な情報を紹介していく。毎週各界の方々の憲法についての意見を掲載する。憲法に関わる裁判の情報も提供していきたい。このホームページには日本国憲法に関わる英語、韓国語の情報も掲載していく予定である。平和主義をはじめとする日本国憲法の内容を諸外国の方々にもお知らせし、ネットワークを広げていきたい。

多くの方々のご支援の結果、このホームページは毎日数百人の方々アクセスして下さるサイトとして発足した。ぜひ全国各地の憲法に関わる様々な活動を支援・交流していきたいし、全国の方々にこのホームページをご活用いただきたい。

いま世界で戦争に反対し、紛争の平和的解決を求める声と運動が大きく広がっている。日本国憲法の平和主義の理念はこの動きに大きく貢献するであろうし、そうしなければならない。平和関係資料を展示・紹介する活動をされている方々ともぜひ連携を強めていきたい。(2004年5月16日)

国内の資料館・博物館ニュース

太平洋戦争史館：岩手

2004年2月12日千葉から「NPO法人ビオスの会」代表4名が戦史館を訪問し、ビアク島調査の準備が始まりました。ビオスの会には昨年9月、パプア州ビアク・ヌンフォル県の公式訪問団来日の際、“生ごみを堆肥にしてやせた土地を肥沃にする技術”の全面協力をいただいています。緑豊かなはずの島から来日した一行が「日本の印象で一番びっくりしたのは、何と緑豊かな国か・・・千葉も岩手も大木が茂っている・・・ビアクでは皆が勝手に木を切ってしまうってこんな大木はありません。」と言っていました。5月にこのチームがビアクで、土づくりの支援活動調査を開始します。（「戦史館だより」44号・2004年2月25日発行より）

Tel: 0197-52-3000

平和文化史料館・ゆきのした：福井

2004年2月11日日本多勝一講演会「イラクとアメリカ、そして日本」の開催の準備会に、「ゆきのした文化協会」も参加しました。

また「自衛隊のイラク派遣と憲法改悪に反対し、戦争への非協力を宣言する意見広告運動」に賛同し、資金を送りました。

昨年は、福井県だけでなく全国から見学者や史料利用の活動が増えました。

（「Kanpow」144号2004年1月5日発行より）

<http://kore/mitene.or.jp/~yukisita/>

電子メール アドレス：

yukisita@kore.mitene.or.jp

Tel & Fax: 0776-52-2169

仙台市歴史民俗資料館：宮城

調査報告書22集『足元からみる民俗(12)』が2004年3月31日に発行され、その中に、小特集「戦争と庶民の暮らし」が収録されています。その中に、講演記録として立命館大学名誉教授の岩井忠熊さんの「戦争と庶民の暮らし - 十五年戦争と庶民の戦争責任」(2001年8月25日)、シンポジウム報告記録としての、宮城県歴史教育者協議会会長の一戸富士雄さんの「戦争と宮城 - 地域社会と軍隊」(2001年8月25日)、聖和学園短期大学助教授の菊池慶子さんの「戦争と女性 - 軍都仙台の女性動員」(2001年8月25日)、仙台郷土研究会副会長の逸見英夫さんの「語りつぐ昭和 - 少国民のつづり方を通じて」(2001年8月25日)、京都大学人文科学研究所助教授の高木博志さんの「日清・日露戦争で近代日本がどうか変わったか? - 文化・宗教を中心に」(2001年8月25日)と、講演記録として仏教教大学教授の原田敬一さんの「戦没者追悼について - 軍用墓地の役割を中心に」(2002年8月24日)、元東北大学教授の安孫子麟さんの「満州移民と日本の農村」(2002年8月24日)、そして学芸員の佐藤雅也さんが「みやぎの近現代史を考える会」の会員と一緒にまとめた「宮城県の戦争史跡・戦争遺跡に関する基礎調査(1)」などが掲載されています。

『資料集』第2冊が2004年3月31日に発行され、その中に、「戦争と庶民の暮らし(2)」として「第二師団管下の配属将校・学校教練関係資料(その2)」などが収録されています。

Tel:022-295-3956 Fax:022-257-6401

長岡戦災資料館：新潟

長岡戦災資料館が2003年7月、長岡市大手通2-1-2「まちなか・考房」1階に、開館しています。長岡空襲に関する資料や戦中・戦後の長岡市民の暮らしを伝える資料の展示・収集・保存をおこなっています。運営に戦災体験者を中心とする市民がボランティアで協力しています。

長岡戦災資料館は運営ボランティアの協力をえて、2003年8月に空襲体験の聞き取りをおこない、それを『長岡空襲の体験記録』としてまとめ、2004年2月25日に刊行しました。

Tel:0258-36-3269

松代大本営の保存をすすめる会：長野市

昨年12月に申し込んだ長野市と保存をすすめる会との懇談が、2月12日におこなわれました。

長野市からは商工観光課の課長、係長、主事、教育委員会文化課係長の4人、本会からは代表や幹事11人が参加し、約1時間40分に渡って懇談しました。事前に長野市に提出した申し入れ書の項目に添って市側から回答がありました。

当会が懇談の5日前におこなった壕内の現地調査結果も補足しながらの話し合いは、中味の濃いものとなり、長野市の姿勢にも前向きな手応えを感じました。

懇談は、従来の市の回答より対応の仕方がかなり良心的でした。特に、史跡指定については今までは「国の調査待ち」一点張りでしたが、「もし国が第一級の指定をしなかったら市でも考えたい」という前向きの発言は、今回が初めてでした。

文化庁の調査はこっそりおこなわれた感があり、また、「象山地下壕保存対策委員会」の存在や審議内容も、あまり知る機会がありません。

一方、市の観光課、文化課の方々は地下壕の現状を充分分かっているとは思えません。従って今後調査をおこなうときなどはお互いに連絡をとりあい、学びあえるようにしていきたいと考えます。

(ホームページより)

またニュース「保存運動」でも、第8回憲法の森デーや、「松代と沖縄を結ぶ平和の旅」など興味深いニュースが載せられています。なおホームページが新しくなりました。

<http://homepage3.nifty.com/kibounoie/>

電子メール アドレス : kibonoie@nifty.com

西宮市平和資料館：兵庫

西宮市平和資料館が2002年12月12日に、西宮市川添町15-26西宮市教育文化セ

ンター 1 階、西宮市郷土資料館の隣りに開館しています。「戦地にて」「戦争と家族」「戦時下の暮らし」「空襲」「未来へむけて」の 5 コーナーに分かれており、市民から寄贈された資料など約 200 点を展示しています。

Tel:0798-33-2086

埼玉県平和資料館

テーマ展 「埼玉軍政部と戦後埼玉の復興」が企画展示室で、2004 年 2 月 3 日～3 月 7 日の会期で開催されました。展示資料目録と解説文を掲載したリーフレットが作成されています。

2003 年度の収集資料を展示する「収集資料展」が企画展示室で、2004 年 4 月 20 日～6 月 20 日の会期で開催されています。

映画会が講堂で開かれ、2004 年 1 月 10 日には「とべとべひよこ」などが、2 月 7 日には「樺太ゴン太・母をさがせ」などが、4 月 10 日には「しんちゃんのさんりんしゃ」などが、それぞれ上映されました。

特別映画会が講堂で開かれ、2004 年 3 月 20 日には「みいちゃんのでのひら」などが上映されました。

平和朗読会が、2004 年 1 月 31 日に、鳩山町で、埼玉県平和資料館と鳩山町との共催で開かれました。朗読会「窓」の皆さんが、吉永小百合編の詩「『広島風』より - 人間をかえせ・慟哭・うめぼし - 」などの作品を朗読し、また「日本国憲法第 9 条」の大阪弁や広島弁による朗読などもおこなわれました。

(「埼玉県平和資料館だより」11 巻 3 号・

2004 年 3 月 15 日発行より)

Tel:0493-35-4111 Fax:0493-35-4112

<http://village.infoweb.ne.jp/~pms>

丸木美術館：埼玉・東松山市

ソウル在住の現代美術家・安星金さんの展覧会、企画展「安星金展 - 生への批判的観点」が 2003 年 10 月 15 日から 12 月 14 日の会期で開催されました。

大浦信行・嶋田美子・鷺見純子の作品を展示する、企画展「Piece For Peace 2003 戦争をこえるために」が 2004 年 1 月 6 日から 3 月 6 日の会期で開催されました。

企画展「絵を描くチカラ - 大塚直人と仲間たちの展覧会」が 2004 年 3 月 9 日から 5 月 15 日の会期で開催されました。

(「財団法人原爆の図丸木美術館ニュース」78 号・2003 年 12 月 25 日発行より)

Tel:0493-22-3266 Fax:0493-24-8371

<http://www.aya.or.jp/~marukimsn>

蕨市立歴史民俗資料館：埼玉

『蕨市立歴史民俗資料館紀要』第 1 号が 2004 年 3 月 11 日に刊行されました。その中に、佐藤直哉さんの論文「戦中政策における代用品普及事業について」が掲載されています。

Tel:048-432-2477

2004 平和のための埼玉の戦争展

核戦争阻止・核兵器廃絶の願いを込めて、1984 年から開催してきた「平和のための埼玉の戦争展」は、昨年で 20 回目となり、この 20 年間に 300 万人以上の方が来られ、平和の世論づくりに貢献してきました。下記のように、展示をする予定です。

展示日：2004 年 7 月 29 日～8 月 2 日
場所：浦和駅西口前 コルソ 7 階ホール
連絡先：048-825-7535

(日本機関紙協会埼玉県本部内)

浅川地下壕の保存をすすめる会：東京・八王子市

地下壕について、戦中の文書だけではなく、戦後の占領軍関係の文書から明らかにできたこと（建物の払い下げなど）が、会のニュースである「Peace あさかわ」39 号で紹介されています。

また八王子空襲について、攻撃する側から見た戦争の歴史を、『米軍新資料 八王子空襲の記録 準備・計画から発令・実行・評価まで』（訳編・解説 奥住喜重 揺籃社 2001 年）で知ることができます。

<http://www.asahi-net.or.jp/~cv6v-vmns/>

市立市川歴史博物館：千葉

『平成 14 年度 市立市川歴史博物館館報』が、2003 年 11 月 1 日刊行されました。この中で、小野英夫さんが「東部第七十三部隊松戸光夫日記（昭和 18 年 7 月 26 日～11

月 3 日）」を資料紹介しています。

Tel:047-373-6351 Fax:047-373-6352

すみだ郷土文化資料館：東京

86 人 86 点の空襲体験画を展示する、企画展「描かれた東京大空襲 - 絵画に見る戦争の記憶」が 2004 年 1 月 31 日～3 月 21 日の会期で開催されました。

Tel:03-5619-7034 Fax:03-3625-3431

豊島区立郷土資料館：東京

豊島区立郷土資料館調査報告書第 16 集『豊島の集団学童疎開資料集 8 日記・書簡編 7 - 仰高国民学校、山田温泉火災関係資料 - 池袋第五国民学校』が 2004 年 3 月 19 日に刊行されました。前者は疎开学童にあてた書簡で、後者は女子疎开学童 8 人が焼死した火災の関係資料です。このシリーズの資料集は、豊島の集団学童疎開に関する文献資料を順次、網羅的に翻刻しているものです。

Tel:03-3980-2351 Fax:03-3980-5271

東京大学総合研究博物館：東京・文京区

地質学者である渡辺武男による原爆被害調査の試料やフィールドノートなどを展示する、特別展示「石の記憶 - ヒロシマ・ナガサキ 被爆資料に注がれた科学者の目」が、2004 年 1 月 24 日～4 月 12 日の会期で開催されました。

Tel:03-5841-2802 Fax:03-5841-8451

第五福竜丸展示館：東京・江東区

ビキニ水爆実験・第五福竜丸被災 50 周年記念プロジェクトとして、2004 年 2 月 14 日に常設展示のリニューアルと所蔵資料の特別展が始まりました。巡回展を高知、京都など数カ所で開催の予定です。

2 月 28 日には、3・1 ビキニ事件記念の集いが開かれ、新藤兼人監督の講演と映画「第五福竜丸」の鑑賞をおこないました。第五福竜丸を素材にし、原爆をテーマにしたことで、映画会社から「プロダクションが潰れるよ」と言われても、「意味のある仕事だから、なんとしてもやろう」といく気持ちで作ったと語りました。

(「福竜丸だより」307 号・2004 年 4 月 1 日発行より)

高麗博物館 Korea Museum：東京・新宿区

この一年、活動は充実し、来館者の層も厚くなり、館内外での交流も広がりました。2002 年 9 月 16・17 日、日朝首脳会談がおこなわれました。日朝交渉は、日本にとって、残されたアジアとの最後の戦後処理であり、植民地支配と冷戦対立という不幸な時代を清算する歴史行為であるにもかかわらず、その視点の欠如が際立つ政治家とマスコミ情報により、拉致事件をめぐって、日本の社会に、反北朝鮮感情のみが拡大していきます。私達は 2003 年、「三・一独立運動」と「描かれた朝鮮人虐殺」を展示し

て、悲惨な歴史の当事者には、日本人も、在日の人も、朝鮮半島に暮らす人たちも、決してなるまいとの思いをあらたにしました。

Tel & Fax: 03-5272-3510

<http://www.40net.jp/~kourai>

(「高麗博物館」7 号より)

ホロコースト教育資料センター：東京・新宿区

『ハンナのかばんーアウシュビッツからのメッセージ』(ポプラ社)は、約 60 年前、ホロコーストの中で 13 歳の短い生涯を閉じた少女ハンナのお話です。ホロコーストを奇跡的に生きのびたハンナの兄ジョージさんと日本の子供達の出会いは物語は、カナダで本になり、児童書のベストセラーになりました。日本でも小学校の課題図書となり、世界 26 カ国で出版されています。ジョージさんが、5 月に来日されました。「ニュースレター」17 巻(2004 年 1 月発行)には、カナダにおける「ハンナのかばん」プロジェクト、高校で英語版の原書を授業で読破、紙芝居セットで読み聞かせなど、興味深い活動が紹介されています。

<http://www.ne.jp/asahi/holocaust/tokyo/>
電子メール アドレス：

holocaust@tokyo.email.ne.jp

神奈川県立地球市民かながわプラザ

「百年の愚行」巡回展である、「21 世紀の地球を考える展」が、3 階企画展示室で、

2004年2月1日～22日の会期で開催されました。

(「地球市民レポート」18号・2004年1月発行より)

Tel:045-896-2121 Fax:045-896-2945

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/plaza>

横浜・川崎平和のための戦争展：神奈川

2003年10月19日から25日まで、慶応大学日吉キャンパスで、「横浜・川崎平和のための戦争展」が開催されました。「日吉キャンパスにみる戦時下の青春 学徒出陣60年」というテーマで展示をし、昭和のはじめの20年間、大学がどのようにして戦争に巻き込まれていったのかを明らかにしようと試みました。1943年から学生は戦場に駆り出され、1944年から敗戦の日まで学生に替わって海軍が使用していたのです。

(「日吉台地下壕保存の会会報」69号2004年1月15日発行)より

<http://www.geocities.HeartLand-Hanami-zuki/2402>

Tel: 045-402-9090

静岡平和資料センター

2004年4月9日から7月11日まで「戦争と静岡の歌人たち - 歌人・長倉智恵雄の人生とともに」という展示をおこなっています。カメラを持ち歩くことが困難な時代に、短歌は戦争を記録する器として大きな意味を持っていました。

2004年7月23日から2005年1月まで「写真屋さんが写した戦時中の清水(仮称)」という展示をおこなう予定です。写真業を営む人々は写真報国会に加わり、戦地の兵士に慰問写真を送るため、家族の写真を撮りました。

(「センターだより」26号・2004年3月8日発行より)

<http://homepage2.nifty.com/shizuoka-heiwa>

電子メール アドレス :

shizuoka-heiwa@nifty.com

Tel & Fax: 054-247-9641

立命館大学国際平和ミュージアム

東京都豊島区にある巣鴨学園が東京空襲の被害にあった様子を伝える、丸野豊のスケッチ画33点などを展示する、共催展「戦争と平和と学園風物」展が2階の208・209会議室で、2004年3月21日～27日の会期で開催されました。

1996年以降に受け入れた資料の目録を掲載した、『資料目録』第2集が2004年3月30日に刊行されました。印刷目録にCD-ROMの目録も付いています。

『立命館平和研究 - 立命館大学国際平和ミュージアム紀要』第5号が2004年3月25日に刊行されました。

大阪国際平和センター(ピースおおさか)

日本ビジュアル・ジャーナリスト協会所属写真家らの写真を展示する、特別展「世

界の戦場から」写真展が、1階特別展示室で、2004年1月10日～3月7日の会期で開催されました。関連して、日本ビジュアル・ジャーナリスト協会代表世話人の広河隆一さんの講演会「世界の戦場とメディアの課題」が、第9回「21世紀の平和を考えるセミナー」として、2004年1月25日に1階講堂で開催されました。

体験画の原画245点を展示する、特別展「大阪大空襲 - 体験画が語る空襲の証言」が、1階特別展示室で、2004年3月13日～5月16日の会期で開催されました。

第10回「21世紀の平和を考えるセミナー」として、地雷禁止国際キャンペーンメンバーの長有紀枝さんによる「平和と人道支援をめぐる市民・NGOの役割」が2004年3月20日に、1階講堂で開催されました。

2004年3月13日に3.13大阪大空襲 平和祈念事業として、「体験者が語る空襲の証言」が1階講堂で開かれ、関西大学名誉教授小山仁示さんが「大阪大空襲とその歴史的意義」と題して講演し、大阪大空襲の体験を語る会の方が体験証言をしました。

戦跡フィールドワーク「西区の空襲あとを歩く - 西区の戦争と歴史」が、2004年3月14日に関西大学名誉教授小山仁示さんらの案内で開かれました。

Tel:06-6947-7208 Fax:06-6943-6080

<http://www.mydome.or.jp/peace>

大阪人権博物館（リパティおおさか）

日本国民という存在がつくられる過程やその問題点を、戦争や植民地をからめて紹介する、特別展「つくられる日本国民 - 国

籍・戦争・差別」が、1階の特別展示室で、2004年4月13日～6月13日の会期で開催されています。

Tel:06-6561-5891 Fax:06-6561-5995

<http://www.liberty.or.jp/>

吹田市平和祈念資料室：大阪

「平和映画会」を毎月開催していますが、2004年1月は1997年ソ連映画「THE GROUND 地雷撤去隊」を10・11・24・25日に、2月は1952年フランス映画「禁じられた遊び」を14・15・28・29日に、3月は1988年日本のアニメ映画「火の雨がふる」を13・14・27・28日に、4月は1981年西ドイツ映画「リリー・マルレーン」を10・11・24・25日に、それぞれ上映しました。

Tel:06-6387-2593

堺市立平和と人権資料館（フェニックス・ミュージアム）：大阪

「ユネスコ世界寺子屋運動」の活動で復興に向けて動きだしたアフガニスタンの生活や文化を紹介する、企画展「アフガニスタンの子どもたちに未来を」展が、2004年1月から3月にかけて開催されました。

（「ふえにつくすだより」23号・2004年3月発行より）

Tel: 072-270-8150 Fax: 072-270-8159

平和人権子どもセンター：大阪・堺市

戦時中子どもによって書かれた日記と「心のノート」の類似性について、平和人権子どもセンターだより「草の根」23号（2004年4月8日発行）で紹介されています。また「小林よしのり『台湾論』の嘘をあばく」や、観光コースにないアジアウォッチングシリーズも、掲載されています。

日本の教科書のあゆみ、アジアの教科書、中国侵略歴史などに関するパネルセットの貸し出しをしています。

連絡は、吉岡数子氏へ

Tel: 072-229-4736 Fax: 072-227-1453

姫路市平和資料館：兵庫

収蔵品展「資料は語る」が2階展示室で、2004年1月9日から3月28日の会期で開催されました。

当時の子どもの絵日記や体験画などを展示する、企画展「絵に見る戦時下の暮らし」が、2階展示室で、2004年4月11日から7月4日の会期で開催されています。

Tel:0792-91-2525 Fax:0792-91-2526

広島平和記念資料館

原爆投下後多くの負傷者が搬送され亡くなった似島での戦争と原爆の被害を紹介する、2003年度第2回企画展「似島が伝える原爆被害 - 犠牲者たちの眠った島」が、東館地下1階の展示室(5)で、2004年3月3日～7月11日の会期で開催されています。

(広島平和文化センター「平和文化」152号・2004年3月1日発行より)

Tel:082-241-4004 Fax:082-542-7941

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/peacesite/>

電子メール アドレス：

hpcf@pcf.city.hiroshima.jp

高松市市民文化センター平和記念室：香川

「平和記念室収蔵品巡回展」が、高松市の屋島西公民館の2階ホールで、2004年4月23日に開催され、屋島地区近辺の市民から寄贈された戦争遺品などを展示しました。(「平和記念室だより」14号・2004年4月発行より)

Tel:087-833-7722 Fax:087-861-7981

<http://www.city.takamatu.kagawa.jp/kyouiku/bunkabu/sbsenter/heiwa.htm>

鳴門市ドイツ館

全国誌『「青島戦ドイツ兵俘虜収容所」研究』が、刊行されました。第一部は「研究等」とし、論文風の原稿をまとめました。第二部は「情報等」とし、エッセー風のものを中心です。

また「チンタオ・ドイツ兵俘虜研究会」のホームページは積極的に活用され、海外を含めたくさんの情報が寄せられています。「Ruhe(ルーエ やすらぎ)ドイツ館館報」8号(2004年2月10日発行)で、詳細がわかります。

<http://www.city.naruto.tokushima.jp/germanhouse/>

平和資料館「草の家」：高知市

今年の新しい企画として「草の家平和講座」を始めました。

自衛隊のイラク派兵、憲法改悪、教育基本法の改悪などの動きに抵抗する市民運動の強化が、より重要な課題になっていることを認識し、2004年の1年にかけて戦争の歴史を学び、平和をつくっていく市民の輪を広げていくため、草の家平和講座を企画しました。

草の家平和講座は、幅広い市民の参加を通じて、日常的な平和活動を場としての役割を果たせるよう期待されます。講座の内容は次の通りです。

開講式、草の家展示資料から見えてくるもの

世界の平和博物館の動向

韓国・朝鮮と日本、東アジアの市民連帯

中国民衆と中国人民抗日戦争記念館

朗読を通して学ぶ戦争

フィールドワーク高知の戦争遺跡

憲法九条による日本の安全保障・危機管理

日米安保とアメリカの世界戦略

昭和初期の反戦運動

平和教育と平和文化の創造

語り部の活動をどう拡大強化するか

草の家との交流を深めている韓国忠州環境運動連合の朴一善（パク イル ソン、Park Il Sun）さんが、3回来館されました。今回は食糧難で苦しんでいる朝鮮民主主義人民共和国の人々のために、日韓市民連帯で植樹事業をおこなうことを合意しました。朝鮮への植樹事業は、日本と韓国の市民が、朝鮮に対する人道支援をおこない、東アジアの平和のために、一歩前進する意味があります。

3月にはイタリアの平和運動家ルチエッタ・リングイネッティさんが、4月にはオーストラリアのマリー・アンハンセンさん親子が、それぞれ草の家を訪れてきました。会員との交流会、憲法の森草刈りに同行し、国際交流を深めました。

米英のイラク侵攻1周年に当たる3月20日には、反戦世界統一行動に連帯する「ピースライブ」を帯屋町で開きました。14組のミュージシャンが参加、反戦の歌をうたい、ピースパレードをおこないました。

去年から始まった週1回の反戦行動は、いまま続け、130余回を超えました。

長崎原爆資料館

前身の国際文化会館当時から収集および寄贈を受けた資料の一部を展示する、「原爆資料館所蔵資料展」が、地下2階の企画展示室で、2004年2月4日～3月30日の会期で開催されました。

Tel:095-844-1231 Fax:095-846-5170

岡まさはる記念長崎平和資料館：長崎市

南京大虐殺生存者長崎証言集会第四回長崎と南京を結ぶ集いが、2003年12月7日に開催されました。約100名の人々が集まりました。集いでは、シーボルト大学教授の横山宏章さんが「南京大虐殺を学ぶ学生の眼」と題して講演をされました。虐殺に加担したもと日本軍兵士の証言ビデオを見た後、南京大虐殺の被害者の女性が証言をされました。その後、長編ルポルタージュ「南京大虐殺」の著者である徐志耕さんの講演がありました。詳細は、「西坂だより」36号で知ることができます。

Tel: 095-820-5600

<http://www.d3.dion.ne.jp/~okakinenn>

電子メール アドレス :

tomoneko@land.linkclub.or.jp

沖縄県平和祈念資料館

特別企画展「銃後を護れ - 戦時下のくらしと情報統制 -」が、分館である八重山平和祈念資料館で、2004年1月13日~2月13日の会期で開催され、本館の展示に加えて、教科書、レコード、町村の議会議事録などを追加展示しました。

沖縄県平和祈念資料館の子どもプロセス展示室では、独自に年4回の企画展や「ピース&ヒューマンライツフェスティバル」などを開催しています。2003年12月4日~2004年1月12日には企画展「わたしたちの権利を知る - 世界人権宣言」を、2004年1月16日~2月15日には企画展「HIV/エイズの危機と子どもたち写真展」を、それぞれ開催しました。「ピース&ヒューマンライツフェスティバル」は2004年1月10日に平和祈念ホールで開催され、与勝高校表現活動部が「ピース・パフォーマンス」を、糸満市立西崎小学校6年の徳村江美さんが「平和メッセージ」を、沖縄県音楽文化振興会が「琉球三国志」を、それぞれ演じました。

(「沖縄県平和祈念資料館だより」6号・2004年3月31日発行より)

Tel:098-997-3844 Fax:098-997-3947

<http://www.peace-musem.pref.okinawa.jp>

平和博物館国際ネットワーク

刀を鋤に平和センター・平和美術館
(アメリカ:デトロイト)

通信 Harbinger Vol. XXI No.4 (2004年春号)によると、12年目を迎えた今日、活発に活動するボランティアが増え、訪問者の数を増やし、資金を作り、平和センターの改装をしています。学校や諸団体の訪問が増え、対応に追われています。6月6日には、詩の朗読や芸術作品作りをする予定です。その他、6月12~13日には子ども達のための芸術祭、毎月最後の金曜日に平和映画祭の上映、10月22日にはフォークシンガーの Matt Watroba や Robert Jones を迎えるなど、様々な企画をしています。

展示では Barbara Lawson という芸術家の作品を展示し、また4月27日から7月24日まで「平和のヴィジョン」という展示をします。小学校就学前の子ども達から高校生まで、子どもの権利条約をテーマにした芸術作品の創作をおこないます。

彫刻家の Jane Bunge Noffke からメールが来て、日本の平和博物館と交流をしたいとありました。例えば、展示物である芸術作品の交流をするため、展示物のリストを喜んで送りたいとのこと。また日米の芸術家同士が平和のために交流をし、それを展示することも可能でしょう。関心のある方は、彼女にメールを出して下さいとのこと。

jbnoffke@peoplepc.com for the contact at
Swords Into Plowshares または
swordsintoplowsares@prodigy.net

アメリカ：オムニ（アーカンソー）

オムニ（ラテン語で「すべて」の意味）という団体は、非暴力、民主主義、人権、社会正義、環境保護を通して、世界平和を求める諸団体の集まりです。

映画祭、ビデオ鑑賞、音楽祭、若者の詩・エッセイコンテスト、芸術作品コンテストなど多彩な活動をしています。

アメリカの平和運動、平和博物館、平和記念碑をまとめた本が、出版されています。オムニで活躍されている James Richard Bennett さんがその著者です。

Peace Movement Directory (guide to peace organizations and memorials in North America), published by McFarland and Co., 336-246-4460

OMNI's web site: www.omnicenter.org

台湾

台湾の Michael Lin さんによると、2002年10月10日に政治犯の強制収容所であった Green Island に Human Rights Memorial Park（人権記念公園）が創られました。台湾政府は、台北に国立人権記念博物館を造るであろうというメールが来ました。韓国における平和博物館を創る動きに、大変感動されていました。

The Peace Museum: イギリスのブラッドフォード

ノーベル平和賞受賞者に関する展示物と、20世紀の平和運動に関する展示物の貸し出しをしています。ホームページで、写真を見ることができます。イラク戦争の影響が、貸し出しの予約がたくさん入っています。また今後、「女性と平和」という移動展示物を作る予定です。

(Newsletter Vol. 6 No. 1 March/April より)

www.peacemuseum.org.uk

電子メール アドレス：

peacemuseum@bradford.gov.uk

北アイルランド

北アイルランドでは、平和博物館の建設のためにさまざまな活動をおこなっています。今年は、アイルランドのノーベル賞受賞者である Sean McBride の百周年記念として、特別な取り組みをする予定です。

(Dr. Terry Duffy のメールより)

オランダ：戦争資料研究所

オランダのエリック・ソームルス博士から下記のような活動の紹介がありました。

オランダには、約10館の戦争・資料館がありますが、移動展示物の交換などの交流をしています。

2005年には、戦時中の子ども達をテーマに展示をオランダ各地でおこなう予定です。

ベルギー（Belgian city of Mechelen）に

ホロコースト博物館の建設をする予定で、国際諮問委員会が作られました。エリックさんはその委員の一人です。

アメリカのワシントンでアンネ・フランクの特別展示会が開かれました。アンネの日記が海外で展示されたのは、これが初めてでした。

drs. E.L.M. Somers

Netherlands Institute for War Documentation

Herengracht 380

1016 CJ Amsterdam

The Netherlands

tel. +31(0)20-5233800

fax. +31(0)20-5233888

www.niod.nl

ノルウェー：ノーベル研究所

6月7日に、ノーベル平和センターが開館します。ノルウェーとスウェーデンの平和的分離の100周年記念の日です。アルフレッド・ノーベルやノーベル平和賞受賞者に関する情報が提供される予定です。

(Anne Cecilie Kjelling さんからのメールです)

The Norwegian Nobel Institute

Drammensveien 19

NO-0255 Oslo

Telephone: +47 22 12 93 21

世界の大学：広島・長崎講座について

広島・長崎講座は、被爆者の「他の誰に

も同じ経験をさせてはいけない」というメッセージの意味を学術的に整理・体系化し、普遍性のある学問として、世界の主要大学において次代を担う若い世代に伝えようとするものです。

人文科学、社会科学及び自然科学の各分野から学際的に学習することにより、核兵器の威力及び非人道性を認識し、被爆者がなぜ和解の道を歩んだかについて正しく理解することを目的とするものです。

講座を開設した大学は、関西学院大学、広島大学、国際基督教大学、早稲田大学、広島市立大学があります。講座開設を計画している大学は、ベルリン工科大学、長崎大学、ボルゴツラード大学があります。従前から広島・長崎講座と同趣旨の取り組みをおこなっている大学は、タフツ大学、アメリカン大学があります。

(広島・長崎講座の詳細は、次のホームページで知ることができます。)

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/mayors/>

講師として、講座に関わりたいと思われる方は、次の方に連絡をお願いします。

Mark Selden ms44@cornell.edu

(アメリカのRaymond G. Wilson 博士より)

出版物

戦争と民衆～戦時下の小田原地方を記録する会発行。52号には、聞き取り「新名女学校の勤労働員」などが載せられています。
事務局：小田原市栄町3の13の2 1井上弘様方

スガモブリズン 戦犯たちの平和運動

内海愛子著 吉川弘文館出版 2004年
(歴史文化ライブラリー176) ¥1700

第二次世界大戦後、再軍備へ向かう政府に戦争反対の声をあげたBC級戦犯たち。名作「私は貝になりたい」は、その魂の叫びをもとに生まれた。戦犯たちのスガモブリズンでの思索と行動から、真の戦争責任とは何かを考える。(カバーより)

平和文化研究 26号 Studies of Peace Culture 長崎総合科学大学 長崎平和文化研究所

「長崎総合科学大学学生・附属高校生の核・平和意識」(芝野由和)などが掲載されています。<http://www.nipc.nias.ac.jp>

ヒバクの島マーシャルの証言 竹峰誠一郎・安齋育郎著。かもがわブックレット
600円+送料。送料は、1~2冊160円、3~5冊210円、6~8冊310円、10冊420円、20冊660円。

申し込み・問い合わせ先：竹峰誠一郎
takeminese@hotmail.com
fax：047(367)7940

『ヒバクの島マーシャルの証言』の要旨

核実験場とされたマーシャル諸島の「あの時」と「今」に迫る現地ルポ。マーシャル諸島のヒバクシャが問いかけるものは？

1954年3月1日、マグロ延縄漁船第五福竜丸が、マーシャル諸島ビキニ環礁の東方海域で、米の水爆「ブラボー」実験と遭遇し、ヒバクしました。第五福竜丸の背後には、同じく「死の灰」をあびたマーシャル諸島現地のヒバクシャもいました。

1998年から2003年にかけて計4回、約8カ月にわたり、核実験場とされたマーシャル諸島を歩き、そこで見て聞いて考えたことを土台に、マーシャル諸島現地のヒバクシャに迫っていきます。そこには、単に核保有国や核疑惑国などの国家動向を追うだけでは見えてこない、核兵器による現実が見えてくるでしょう。

マーシャル諸島の人びとはどんな暮らしをしてきたのであろうか？1954年の核実験当時、マーシャル諸島現地では何が起こっていたのであろうか？それから50年、核実験場とされたマーシャル諸島は「今」どうなっているのであろうか？

やさしく丁寧に、ヒバクシャの証言や写真・地図も豊富に使って、展開していきます。マーシャル諸島のヒバクシャについてより知りたい方への文献紹介も含めました。

前半には、ビキニ水爆被災や日本の第五福竜丸についても一から知れるように、「いま、ビキニ水爆被災事件を学ぶ」と題した文書を含めました。

Jewish Displaced Persons in Camp Bergen-Belsen 1945-1950: The unique Photo Album of Zippy Orlin edited by Erik Somers and René Kok(2003)
Netherlands Institute for War Documentation. Waanders Publishers: Amsterdam

World Peace and Disarmament edited by Leena Parmar(2003) Pointer Publisher: Jaipur, India
“Creating a Culture of Peace at a Peace Museum” by Kazuyo Yamane が含まれています。

An Analysis of Our HASTIC Era & the Role of the Japanese Peace Constitution: Peace Studies and Essays by Kazuo Ota (2004) Horitsubunka-sha, Kyoto ¥3500

War & State Terrorism The United States, Japan, and the Asia-Pacific in the Long Twentieth Century edited by Mark Selden and Alvin Y. So (2004)
Rowman & Littlefield Publishers: Lanham, Boulder, New York, Toronto and Oxford

“Japanese Racism, War, and the POW Experience” (内海愛子氏著)が、掲載されています。

訂正

ミューズNo.11の6ページの論文名ですが、次のように訂正をお願い致します。

サハリン大学教授ミハイル・ヴィソーコフは論文「樺太と千島列島編年史－1940 - 49」



* おことわり *

無署名の記事は、編集者の責任でまとめたものですが、署名記事は執筆者の責任で書かれたもので、平和のための博物館・市民ネットワークの事務局や編集者の見解を、必ずしも示すものではありません。

原稿募集

英文の *Muse* を 7 月と 12 月に海外の平和博物館に発送します。日本各地の平和博物館、資料館などのニュースを載せますので、「草の家」に原稿や資料を送って下さい。

780-0861 高知市升形 9 - 11

「草の家」国際交流部 山根和代

Tel: 088-875-1275 Fax: 088-821-0586

GRH@ma1.seikyou.ne.jp

<http://ha1.seikyou.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori/>

(このホームページで、ミューズと英文 *Muse* を読むことができます。韓国の平和研究者、平和活動家のキム・ヨンファンさんのおかげです。有難うございます。)

*** 翻訳者、募集 ***

海外のニュースをボランティアで翻訳、あるいは要約する方を募集しています。

国際ネットワークの次回の Newsletter は、かなり量が多いと想像しています。少しでも構いませんので、是非協力をお願い致します。(連絡は、山根までお願いします。

kyamane@sings.jp)